

# テーラーカラーの構成 第5報

—上衿に適した接着芯—

加藤 祥子

(家政学教室)

Shoko KATO

## 1. 緒 言

難易度が高いと言われるテーラーカラーに、初心者でも取り組めるよう縫製法を確立したい。一連の実験を行うことによって、ブラウス、スカートを仕上げただけの初心者が、テーラーカラーのジャケットを縫製できるよう指針を与えたいと考えた。

第1報<sup>1)</sup>において、テーラーカラーの上衿の縫製に効果をあげる「芯の留め方」を検討した結果、従来裏衿全体に行ってきたハ刺しより、衿腰部をミシンで直線縫いし、折山線と衿羽根部をハ刺しすることによって縫製効率も上がり、でき上がりの効果も期待できることが分かった。

第2報<sup>2)</sup>では、熟練と時間を要するハ刺しに代わり、家庭用のミシンを用いて裏衿の成形を試みた。その結果、衿腰に強度、弾力があり、自然な丸みに折れ返る裏衿が完成した。

第3報<sup>3)</sup>は表衿を中心に衿付けの母体となる身頃との関係も検討した。

衿腰部にできる皺や折り山にできるコブは、後ろ身頃の衿ぐり線を延長して上衿の衿腰部を延ばして付けること、表衿の型紙をたたんで表衿腰部の布を直接的に減らすことを組み合わせて行い解消することができた。

芯の裁断方法の違いでは、輪裁ちのほうが皺コブ共に多く、別裁ちの効果はあったが外観を大きく損なうものではなかった。

布の厚みに伴い顕著に現れた衿羽根先の反り返り、ラベル先の浮きは表衿の型紙を展開することによって、外回り線を延長し改善することができた。

第4報<sup>4)</sup>では表衿の展開方法と裏衿との寸法差に焦点を絞り、厚さの異なる素材を用いて組み合わせ実験を行い、外観良く、簡略で作り易い方法を選択した。

第5報となる本報では、裏衿に用いる接着芯について種類による仕上がりの差異を確かめる。

接着芯は、毛芯やパンピースに比べ種類が豊富で市販量も多く、入手しやすいが、商店による販売商品のばらつきや種類別用途の不明確さから、洋裁経験の浅

い初心者がテーラーカラーに適した接着芯を選択するのは困難であり、選択上の示唆が必要であると思われる。

## 2. 実験方法

接着芯は基布の種類で編み地、織り地、不織布の3タイプがある。

実験では織り地タイプを厚さの違う2種、編み地、不織布で1種ずつ計4種を取り上げた。

実験服の素材は、第4報と同様に厚さの違う4種を用い、接着芯と組み合わせて実験服を製作した。

実験服は、第4報と同様に表1に示す文化式婦人参考寸法Mサイズ<sup>5)</sup>を用いた文化式原型をもとに製図した文化式テーラーカラー<sup>6)</sup>の実験服である。図1は参照した文化式テーラーカラーの製図であり、図2は実験服の型紙と採用した縫代である。

実験服の形式は袖なし、衿仕立てで図1のように衿腰幅3cm、衿羽根幅4.5cm、あきの深さは胸囲線より9cm、持ち出し分を2.5cmとした。

表1 文化式婦人服

参考寸法	
Mサイズ	
(mm)	
計測項目	寸法
胸囲	820
胴囲	620
腰囲	880
背丈	370
背肩幅	390
背幅	350
胸幅	340

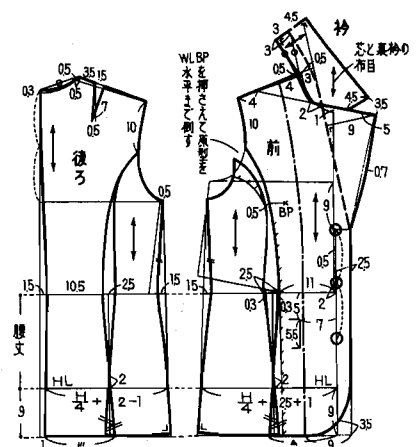


図1 文化式テーラーカラーの製図

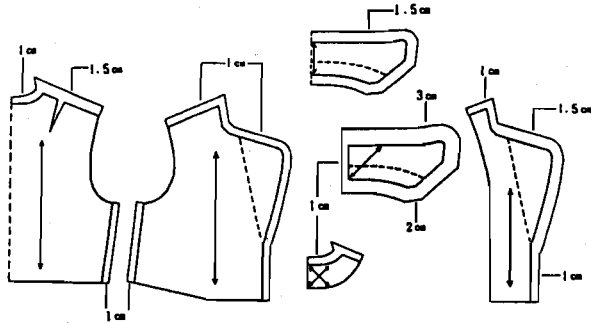


図2 実験服の型紙と縫い代

素材の諸元は表2, 接着芯については表3に示す。衿仕立てにすることから, 裏地にはキュプラ100%のタフタ(タテ51.8本/cm, ヨコ34.2本/cm, 厚さ0.05mm)を使用した。裏地の型紙と縫い代は図3に示す。

表2 素材の諸元

項目 / 名称	シーチング	ギャバジン	カシミアフラノ	ラムモッサ
組成	綿100%	毛100%	毛90%ナイロン10%	毛90%ナイロン10%
組織	平織	斜文織	変化斜文織	斜文織
平面重(g/cm <sup>2</sup> )	0.015	0.023	0.027	0.026
厚さ(mm)	0.33	0.42	0.79	1.40
糸密度 タテ	24.8	31.8	19.2	17.4
(本/cm) ヨコ	24.6	20.6	16.0	14.8

表3 芯地の諸元

項目 / 基布	編み地	織り地	不織布	
商品名	アビコ	ステーフレックス	バイリール	
品番	AM300	MD590 MD610	MU926	
組織	縦編み	平織	平織	
重量(g/cm <sup>2</sup> )	0.0064	0.0106	0.008	0.0058
密度 タテ	15.6段	13.0本	18.8本	
/cm ヨコ	13.4目	20.8本	26.6本	

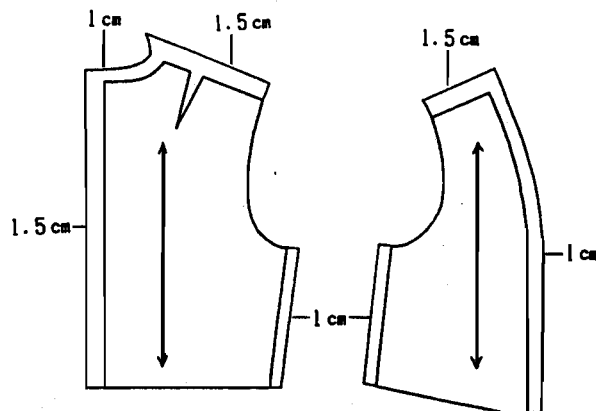


図3 裏地の型紙と縫い代

実験服は素材と接着芯を組み合わせた16着であり, 表4に示す。なお第3報の結果より, 織り地の接着芯については正バイヤスで輪裁ちとし, 他2種についても輪裁ちとした。

表4 実験服の種類

実験服	項目	
	接着芯	素材
1	編み地 アビコ AM300	シーチング
2		ギャバジン
3		カシミアフラノ
4		ラムモッサ
5	織り地 ステーフレックス MD590	シーチング
6		ギャバジン
7		カシミアフラノ
8		ラムモッサ
9	織り地 ステーフレックス MD610	シーチング
10		ギャバジン
11		カシミアフラノ
12		ラムモッサ
13	不織布 バイリールMU926	シーチング
14		ギャバジン
15		カシミアフラノ
16		ラムモッサ

製作した実験服は表5の人台に着装し, 前面より「衿羽根先の反り返り」, 「ラベル先の浮き」を測定, 後面では表6の分類で「衿腰のしわ」の数を, 更に「折山のこぶ」の数を測定して総合的に外観を判定した。裏衿中心の補強, ラベル折り返し部分の伸び止めには, 幅9mmの綿テープを使用した。

表5 人台の計測値 (mm)

計測項目	寸法
胸囲	800
胸囲	580
腰囲	875
背丈	375
背幅	320
胸幅	350

表6 衿腰のしわ (cm)

分類	大きさ
特大	3.1以上
大	2.1~3.1
中	1.1~2.0
小	1.0以下

表衿の型紙については, 第4報で結果の良かったネックポイントで展開した。

### 3. 結 果

結果は表7のようになった。

表7 素材による接着芯の影響

測定項目	衿羽根先の反り返り		ラベル先の浮き		衿腰のしわ				折山のこぶ
	mm		mm		個				個
単位	左	右	左	右	特大	大	中	小	
1					1	1		2	4
2		6			1			2	3
3									
4									
5					1	1	1		2
6		8			1		3		3
7								4	1
8		4							
9					1		2	2	2
10	1				1		2	1	4
11		2	3			1	1	2	
12									
13	7		7	6	1	1	2		4
14	7	7	7	7	1		1		2
15	11	5	5	2	1		1	1	2
16		3		3					

接着芯に着目してみると、衿羽根先の反り返りとラベル先の浮きは、不織布の接着芯を用いたものに最も顕著に現れ、以下織り地の接着芯、編み地の接着芯の順に測定値は低くなった。

折り山のこぶについても不織布を用いたものに多かった。

衿腰の皺は、不織布より織り地の接着芯ステーフレックス MD610に多く見られたが、不織布を使用したシーチング、ウールギャバジン、カシミアフラノの実験服は上衿全体が固くなり、折り山線で折れ返る際にも、首回りを包む際にも自然な弧を描けず、はっきりと折れ曲がってしまうため特大の皺が目立った。なお、不織布を使用した場合でも、ラムモッサについては外観を損なうことなく仕上がった。ラムモッサのような厚手の素材は、芯による影響が外観に響きにくいものと思われる。以上の結果から、編み地の接着芯を用いた上衿の外観が良く、以下織り地の接着芯ステーフレックス MD590, MD610, 不織布の順となった。これはせん断性の高い順になっており、上衿の仕上がりとしせん断性の関連は高い。せん断性については表8に示す。

表8 芯地のせん断性

商品名	アピコ	ステーフレックス	バイリール	
品番	AM300	MD590	MD610	MU926
せん断変形量タテ	12.6	14.9	13.4	1.2
(deg)ヨコ	21.9	18.8	15.3	1.2

よって、テーラーカラーの製作には編み地の接着芯を用いることが望ましい。織り地の接着芯は、正バイヤスに裁つことにより同様の効果を期待できる。取り扱いの楽な不織布の接着芯はせん断性が低く、如何なる方向に貼っても固く仕上がるため、テーラーカラーでの使用は避けるべきである。

素材の厚さに着目してみると、衿羽根先の反り返りとラベル先の浮きは、不織布を使用したシーチング、ギャバジン、カシミアフラノに顕著であった。しかし、不織布を除く編み地、織り地の接着芯を使用したものの測定値がシーチング、カシミアフラノ、ラムモッサでは微小であるのに対し、ギャバジンでは高い数値を示した。ギャバジンの測定値が際立つ要因として表9に示す熱セット率の低さが考えられる。

表9 素材の熱セット率

名称	シーチング	ギャバジン	カシミアフラノ	ラムモッサ
熱セット率%	17.1	14.8	11.4	9.7

厚みのある素材、糸密度の高い素材ほど熱セット率は低下して、アイロンでの整形が困難になる。ギャバジンは糸密度が高く、時間をかけて熱加重しても素材がなじまず、外回り寸法が十分であっても衿羽根先やラベル先に自然な丸みを与える事は難しい。一方、厚手の素材であるカシミアフラノ、ラムモッサは、同一条件下の熱セット率はギャバジンに劣るが、糸密度が低く、熱加重時間を増加させれば整形が可能であるため、衿羽根先の反り返り、ラベル先の浮きの測定値は低かったものと思われる。折り山のこぶ、衿腰の皺はシーチング、ギャバジンには目立つが、カシミアフラノでは大幅に減少し、最も厚手のラムモッサではこぶ、皺ともに全く見られなかった。

第4報で、素材の厚みによって寸法差を入れる場所を変えることは洋裁経験が浅いと困難であるとし、寸法差の入れ方を統一したことがシーチング、ギャバジンの折り山のこぶ、皺の原因であると考えられる。

また、不織布の接着芯を使用したものは特にシーチング、ギャバジンでは上衿全体で固くなり、折り山線で折れる際にも首回りを包む際にも自然な弧を描けず、はっきりと折れ曲がってしまい外観が悪かったことから、薄手の素材は厚手の素材に比べ接着芯による影響を受けやすいものと思われる。

以上、洋裁経験の浅い初心者がテーラーカラーの素材を選ぶ際には、ギャバジンのような糸密度が高く表面が固く滑らかでアイロンのかかりにくい素材は避け、糸密度の低い、目の粗い素材を選ぶ方が無難である。また、薄手の素材を選ぶ際は、特に不織布の接着芯を用いないよう注意し、縫製の際は、より美しい外観に仕上げるため、表衿と裏衿の寸法差を図4(第3報:実験1より)のように入れるのが望ましい。

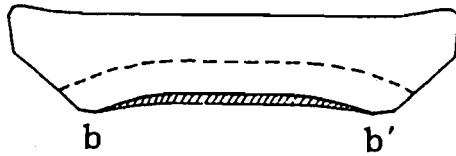


図4 寸法差の入れ方

#### 4. 要 約

難易度が高いと言われるテーラーカラーに初心者でも取り組めるよう縫製法を確立したい。今回は裏衿に用いる接着芯について、基布の種類による仕上がりの差異を確かめた。上衿の仕上がりと裏衿に使用する接着芯のせん断性との関連は高く、貼付後も柔らかさを失わない編み地の接着芯を用いることが望ましいと思われた。織り地の接着芯も正バイヤスに裁つことにより編み地と同様の効果が期待できる。

本研究に御協力くださいました皆様に深謝致します。

#### 引 用 文 献

- 1) 加藤祥子, テーラーカラーの構成 第1報, 愛知教育大学家政学教室研究紀要, 25, 1994年, 77~84
- 2) 加藤祥子, テーラーカラーの構成 第2報, 愛知教育大学家政学教室研究紀要, 44, 1995年, 61~66
- 3) 加藤祥子, テーラーカラーの構成 第3報, 愛知教育大学教科教育センター研究報告, 21, 1997年, 155~160
- 4) 加藤祥子, テーラーカラーの構成 第4報, 愛知教育大学家政学教室研究紀要, 28, 1997年, 53~58
- 5) 文化服装学院・文化女子大学編, 文化服装講座1 婦人服編(I), 文化出版局, 1981年, 54
- 6) 文化服装学院・文化女子大学編, 文化服装講座2 婦人服編(II), 文化出版局, 1981年, 28

(平成9年9月11日受理)